



きらり！ チームほおの木

No. 7

<笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい>

令和5年1月16日(月)

文責 田中 純



謹賀新年



- 新しい年がやってきました。各地から初市の知らせが届いてきました。12日(木)には、ここ喜多方市の小荒井の初市が開かれました。初市に出かける人々のお目当ての一つには、そこで売られる民芸品の起き上がり小坊師や風車、だるま、初音(小さな竹の笛)などの縁起物があります。転んでもすぐ起き上がる起き上がり小坊師は家族の健康や子孫の繁栄の祈りが込められています。風車は、仕事やお金がよく回るようにという縁起を担いだものです。縁起物のほかに初市で売られているものには、子どもたちがほしがる玩具や食品等もたくさんあります。本校の1年生と2年生が生活科の学習の一環として、初市に出かけ市で売られているものを見たり、買い物をしたりする体験学習を行いました。朝からわくわく、そわそわしていた子どもたち。「何を買ってくるの?」の問いかけに、「おもちゃ。」「飴。」のほかに、「起き上がり小坊師。」「だるま。」などの縁起物を買ってきたいという子どもがたくさんいました。今年の正月、初市は穏やかな天気でした。今年こそ、子どもたちに関わる様々な物事が穏やかに、そして幸せを感じる日々が多くやってくることを願います。



雪に関する話・・・

<その1>

- 今のところ喜多方の積雪は例年より少ないです。これが、いつもの冬のように静かな朝、窓から恐る恐る外を見ると「どか〜ん!」と雪が積もっていると大変なのが、「雪かたし」ですよね。積もった雪を「片付ける」から「雪かたし」。同じように雪を人の力で片付ける言葉を聞いたことありませんか。まず「雪はき」。それから「雪かき」もあります。「雪はき」と「雪かき」では、どちらが降り積もった雪の量が多い感じがしますか。やはり「(ほうきなどで)はく」よりは、「(スコップなどで)かく・かきとる」方が降り積もった雪の量は、多いような感じがします。喜多方を含む会津地方では、「雪はき」でも「雪かき」でもなく、やはり「雪かたし」が合っているようですね。私が以前勤めていた南会津の只見町の学校では、用務員さんが「ちょっと、雪ほりに行ってきます。」と言ってスコップを担いで玄関を出て行かれたのを思い出します。降り積もる雪の量と、それを片付ける意味で使う言葉。それぞれの地域に応じて使われてきたのでしょうか。 ※<その2>は次回に。

